

第 1 1 号

出典：病院薬局製剤第 4 版 日本病院薬剤師会編（薬事日報社刊）
メトロニダゾール（単剤）軟膏 - 新潟大学
メトロニダゾール（単剤）ゲル - 東海大学

抗炎症作用

資料 9 号

病院薬局製剤

第4版

日本病院薬剤師会 編

薬事日報社

※ 造形剤

1 軟膏剤・クリーム・口腔用剤 203

I-1-64
1g
0.1g
0.5g
50mL
50g

リンを少量加えて練合する。そして全精製ラノリンの約1/4量を加えたところで、泥状とした83%コールタールアルコール(備考参照)を加えて混和し、残りの精製ラノリンを加えていく。精製ラノリンを全て加えて混和した後に、白色ワセリンを徐々に加えて十分に練合して、全質均等として製する。専用の容器に充填する。

容器および貯法 遮光気密容器、室温保存
使用診療科 皮膚科

適応 乾癬症
用法・用量 適量を1日2回患部に塗布

使用(有効)期限 6ヵ月(データなし)
備考 83%コールタールアルコールは、コールタールをエタノール(局方品)で希釈調製する。

製剤量、製剤頻度 標準：30kg/年、強力：3kg/年、50%：5kg/年

施設名 新潟大
◎類似処方 (長岡中央総合)

乾癬軟膏

処方	サリチル酸	25g
	83%コールタール	25g
	白色ワセリン	500g

フラジール軟膏(1%) (メトロニダゾール軟膏) I-1-66

処方	フラジール(250mg)錠	4pT
	プロピレングリコール	少量
	親水軟膏	全量 100g

(pTは錠剤の粉砕を意味する)

処方起源 独自処方
製剤企画の動機 医師からの要望
処方薬剤規格 メトロニダゾール(フラジール錠、塩野義)、プロピレングリコール(局方品)、親水軟膏(O/W型乳剤性軟膏基剤、丸石)
調製法 あらかじめ錠剤粉砕機にて粉砕したフラジールを篩過(50メッシュ)して、微細粉末化する。そこに少量のプロピレングリコールを入れて泥状とした後、親水軟膏を少量ずつ加えながら十分に練合して、全質均等として製する。専用の容器に充填する。

容器および貯法 遮光気密容器、室温保存
使用診療科 皮膚科

適応 酒さ皮膚症
用法・用量 適量を患部に塗布

使用(有効)期限 6ヵ月(データなし)
文献 1) P.G.Nielsen: British Journal of Dermatology, 109, 63-65, 1983, (岡山大)
2) Bleicher P.A. et al.: Arch.Dermatol., 123, 609-614, 1987, (東京大)

製剤量、製剤頻度 4kg/年
施設名 新潟大

◎類似処方 (東海大)
0.8%メトロニダゾールゲル

処方	メトロニダゾール(2-メチル-5-ニトロイミダゾール-1-エタノール)	0.8g
	プロピレングリコール	10mL
	10%水酸化ナトリウム液	2mL
	1%カーボポール934P液	88mL
	全量	100g

使用診療科 外科、放射線科
適応 Fungating Tumours からの悪臭除去

文献 1) Arky R: METROGEL. Physician's Desk Reference 49, Med Econ, Montvale, NJ p.1055, 1995.
2) 塩野義製薬(株), フラジールインタビューフォーム。

薬状に発育した腫瘍

を に取
え、混ぜ合
パラフィン
混和し製す

2g
488mL
全量 1kg

本 強
I-1-65

5g
10g
47.5g
47.5g
全量 110g

3%コールタ
ノリン(局方

白色ワセリン
が微細粉末化
した精製ラノ

0.1%プレマリン軟膏

I-1-67

処方	プレマリン	20mg
	精製ラノリン	2g
	白色ワセリン	全量 20g

処方起源 文献応用処方
製剤企画の動機 医師からの要望
処方薬剤規格 静注用プレマリン(結合型エストロゲン、旭化成)、精製ラノリン(局方品)、白色ワセリン(局方品)
調製法 静注用プレマリンを注射用水0.3mLで溶解し、精製ラノリンに吸収させる。その後、白色ワセリン18gでよく練合し製する。

規格・単位 20g
容器および貯法 プラスチック容器、冷所保存
使用診療科 産婦人科

適応 膣炎
用法・用量 1日数回膣内に塗布
使用(有効)期限 1ヵ月

備考 用時調製が望ましい。
文献 高野正彦: 今日の皮膚外用剤, p.184, 190,